



山田安信 議員
日本共産党

○連携型中高一貫教育の実施を決めた「勝山市立中学校再編計画」が、説明もなく変更されたことについて
○病児保育園の問題について



その他の質問・福島原発事故と能登半島地震を経験しても、若狭湾の原発を推進する異常さについて ・組織的な犯罪の疑いがある、自民党内の違法な裏金問題について

【議】 ①中嶋教授は、中3全員に英数のサポート授業では、連携型中高一貫教育には該当しないのではないか指摘された。県教育委員会は、勝山市の計画を「県が実施している連携型中高一貫教育に該当する」と認めたのか。

②文科省の「中高一貫教育Q&A」は、中高一貫教育は「複線化」と「選択的」が条件だとしている。「中3全員サポート授業が中高一貫教育」なら、生徒や保護者が「中高一貫教育は望まない」という選択肢は無く、校舎も共同利用。しかも勝高敷地以外の場所があり、再検討を求める署名もある。勝山市の計画は、中高一貫教育の諸条件に違反していないか。

【理】 ①全クラスでサポート授業をすることにについては、県内3地域の実施形態とは異なるものと考えているが、県に基本計画案を説明した折には、先取学習について質疑があり、サポート授業の中で検討していく旨、答えている。中高連携教育の効果的な実施等については、今後、県との協議を通して、中高生にとってより良いものとなるよう努めていく。

②勝山は連携型の中高一貫教育で、中学校は一つになるが卒業後に進学する高校の選択は自由であり、授業は基本的に中高それぞれの学習指導要領に沿って実施するため、議員のご指摘にはあたらない。

【議】 医師会が提出された「陳情」は、医師会などの協議・協力の依頼が一切なく、突然の通達で混乱をきたしている」と指摘している。これは事実なのか、医師会などの協議や協力は必要ないと考えているのか。

【理】 病児保育事業の実施は、市が認可するものではなく県への届け出により開始できるものである。病児保育事業の実施検討にあたり、各実施予定事業者と事前協議を行ってきた。勝山市医師会へは2月19日に直接、事前説明を行っている。病児保育は対象の児童がかかりつけ医で受診した後、保護者と協議の上、受け入れの決定をするため、地域の医療機関との連携は不可欠であると認識している。今後も医師会と協議していきたい。



近藤栄紀 議員
市政会

○能登半島地震について
○高齢者の交通手段について



【議】 住宅耐震化の促進について当初予算案では、463万5,000円計上されているが、わざわざ能登半島地震を受け」と前置きをしている。この予算額の根拠を伺う。

【理】 予算額の根拠として、昭和56年5月以前に建築された木造住宅に対する耐震診断及び耐震改修プラン作成が46万円。耐震診断及び耐震改修プランに基づく耐震改修に対しては、全体改修で県の補助制度の拡充により120万円が150万円。部分改修に30万円。伝統的民家等はこれまでの補助限度額を237万5,000円に引き上げ、合計463万5,000円となった。

能登半島地震以降、市民から木造住宅の耐震に関する問い合わせが14件あり、関心の高さがうかがえる。令和6年度からは耐震改修工事の補助限度額及び補助率も引き上げを行うとともに、補助件数についても希望者全ての希望が叶えられるよう、柔軟な対応に努め、住宅所有者の費用負担を少なくする財政支援の強化を行うため、しっかりと議論を行い、形にしていきたい。

【議】 高齢者の交通手段について、コミュニティバス利用客の主な行先は病院、買い物だと思ふ。特に買い物は高齢者にとって重たく苦痛である。スーパーなどで購入した製品を無料で配送するサービスの支援を検討してはどうか市の見解を伺う。

【理】 高齢者の買い物支援は、介護保険サービスにおける訪問介護や有償ボランティアなどを利用して買い物代行する方法、移動販売車や宅配サービス、インターネット通販などを利用して高齢者の方自身が買い物をする方法などがある。また、勝山市においては、平泉寺地区、村岡地区において、送迎付きの買い物支援サービスも実施している。購入した商品を個別配達する事業者に対して、配達料の一部を助成している自治体もあり、今後は、他自治体の取り組みも参考にしながら、高齢者の方のニーズにあわせて買い物支援の方法について研究していきたい。